

平成 30 年 12 月総合教育委員会 会議録【公開用】

日 時 平成 30 年 12 月 7 日（金） 午後 3 時 15 分～午後 4 時 10 分  
場 所 中央公民館学習室 A  
出席者 町長 壬生照玄  
教育長 帯刀昇  
教育長職務代理者 藤田柳治  
教育委員 宮島元子 鈴木ちほ 湯澤正農夫  
事務局 福島事務局長  
清水学校教育係長・松島こども支援係長  
寺沢社会教育係長・岩田文化財保護係長

鈴木委員

なりたい自分になるためには学力が必要とのことだが、町内の小中学校への指導主事を 1 名依頼してはどうかということ。教育相談室の高野相談員は、相談員と指導員の両方の役割をしている。仕事を分けたらどうか。

壬生町長

学校の取り組みをきちんと評価する仕組みが必要で、教育委員に評価内容が伝わるべきだと思う。評価システムとして、信州型コミュニティスクールをやめて文部省型に変えることで外部評価をすることを考えている。指導主事が必要だとすれば、導入してもよいが、人選が難しいと感じる。

鈴木委員

対応が難しい子供が増えていて、教員の悩みが多いのではないかと感じている。指導主事による教員への指導だけではなく、相談に乗れると教員力が向上すると思う。自主研修を町として用意すると、教員の力が上がるのではないか。

藤田職務代理

教育事務所に指導主事がいる。各学校での機能はどのようになっているか。

湯沢委員

各学校からの要請があった場合が原則だが、職員指導と学習指導の対応をしている。管理職へは学校運営上の直接指導は困難。場合によっては現場の教員を指導主事にすることも可能だ。岡谷市や飯田市が導入している。ただし、給与等の費用は依頼する市町村が負担しなければいけない。

壬生町長

再任用制度を利用してはどうか。

鈴木委員

御代田町は高森町と同規模だが、支援の予算がとてらかかっている。教員の指導力が必要だとのことで、4月から指導主事が入っている。校長とは別の視点で相談に乗ることができる。

壬生町長

指導主事はどのような立場か。

湯沢委員

次に教頭になるような教員が指導主事になることが多い。御代田町の場合には再任用制度で町費を使って雇っている。

壬生町長

現職の教員が難しければ、退職した人を雇えばよい。現場を知りすぎている人の方がよいのではないか。ただし、指導を3年くらいして教員が育ってから異動されるのはどうなのか。町の方針を伝えられる存在だとよい。

湯沢委員

退職者任用の場合、退職後、時間がたって学校との距離が離れ過ぎてしまった者には困難。また、指導主事が頻繁に学校に入ることによって校長・教員間に溝が生まれるようでは本末転倒。学校運営については、学校長が責任を持っているので、指導主事はあくまで教員の指導力向上を担当すべきではないか。

鈴木委員

御代田町では外部から講師を呼んで、勉強会をしている。若い先生の意識が上がっていくと、全体の底上げになっていくと思う。教員のやる気があると、子どもたちもやる気になる。

藤田職務代理

どういう子どもになるのか育成するのか明確にならないと、どこを目指せばよいのかわからない。

湯沢委員

ある村では（数値）学力アップを目指していると聞く。学力テスト（全国学テ）対策した時だけ成績が上がっているのでは意味がない。将来に生きて働く、役立つ学力

を養わないと意味がないだろう。

#### 鈴木委員

校長・教頭が変わると、方針もガラッと変わる。町の方針がしっかりすると、方向性がしっかりしてくる。指導主事がいれば、現場で方向性が明確になるのでは。

#### 壬生町長

来年度から教員が地域採用になる。南信州地域の学生の多くが、中北信を希望した。地域に愛着がないことが原因。中北信にはいい病院があり、設備が整っていることも影響していると考えられる。学力だけではなく、お世話になった地域に貢献する・外からも応援できるようになってほしい。こうしたことをこれまでは親がやってきたが、今後は行政が担っていく必要がある。この部分で差別化ができたところが良いところという考え方になっていく。教員の能力を含めて外から評価して考えていくことが必要。

異動によって学校に配属されてくる教員の中で、どのように町の方方向性に向かって学校運営して、評価していくのか。指導主事やコミュニティスクール等、やり方だと思う。少しずつやっていく。良い指導主事を探してほしい。

どこを目指すのか、明確にしていく。町の方方向性を学校でも行えるようにしていく。校長の考えもあるが、町の考えが反映されることが必要。

#### 藤田職務代理

地震体験車の活用について提案する。東南海地震の発生想定は30年以内に80パーセント程で当地域は震度6強と予測されている。長野県で地震体験車を1台所有しているので、有効活用して小中学校で防災学習の一環で実施できたらどうかと思う。これに併せ役場職員も危機管理研修として実施したらどうか。

#### 壬生町長

5年くらい前のまると収穫祭で借りたことがある。来年度に借りられないか。地震体験車を使っの研修は、小学生・中学生のどちらかに対象を縛る必要があるのではないか。

#### 藤田職務代理

初年度は両方実施したほうが良いのでは。  
また、防災（震災）マニュアルは確たるものがないため、保育園と小中学校で、しっかりしたものを作る必要がある。役場の防災担当は防災に関する一定の知識を有しているため一緒になって作ってほしい。

壬生町長

昭和 40 年代に建てた木造の建物が吉田保育園とみつば保育園。簡易的な検査では問題なかった。昭和 53 年に建てた吉田河原保育園で耐震診断をしたところ、倒壊の危険性が高いという結果が出た。保育中に大地震が来ることがあるので耐震補強をする必要がある。学校は部分的にやっている。南小は十分な耐震補強をしている。北小は一部課題がある。

保育園は指定避難所になっているが、耐震診断の結果が悪い。下市田保育園はイエローゾーンになっている。将来的には耐震補強をして存続する方向性か。

宮島委員

みつば保育園の事故のこともあり、システムと人に関わるリスクを洗い出す必要がある。子どもの安全だけではなく、自治体の責任としても整備する必要がある。

藤田職務代理

体験のみを実施するとイベントになってしまう。学校の防災教育の中でやらないと、ただ乗って楽しかった、やらされたというだけで終わってしまう。地域や消防署と連携して取り組んだ事例もある。

壬生町長

防災については、地域に役立つ人が育つことを考えるよりは、防災教育を考えた方がやりやすいと思う。消防団が関われば、将来入団したいという子どもが出てくるかもしれない。

藤田職務代理

防災教育の一環として、自分達目で通学路の危険箇所を調査して図に落とし込んで、それを発表することで考える力も付いていく。

壬生町長

コミュニティスクールはホテルや市田柿も大切だが、防災面で地域とかかわり、3校が方向性を持ってできるとよい。アイデアは実行しないと意味がない。学校の先生にもやってもらいたい。